

世界に翔く宮崎牛

発行所
宮崎県肉用牛協会
社団法人 宮崎県畜産会
No. 4

1994年7月号



九州・沖縄ブロック農政審議会委員の先生方を前に経営の内容と日本農業の大切さについて力説中の松本愿氏（新富町）

7月号目次

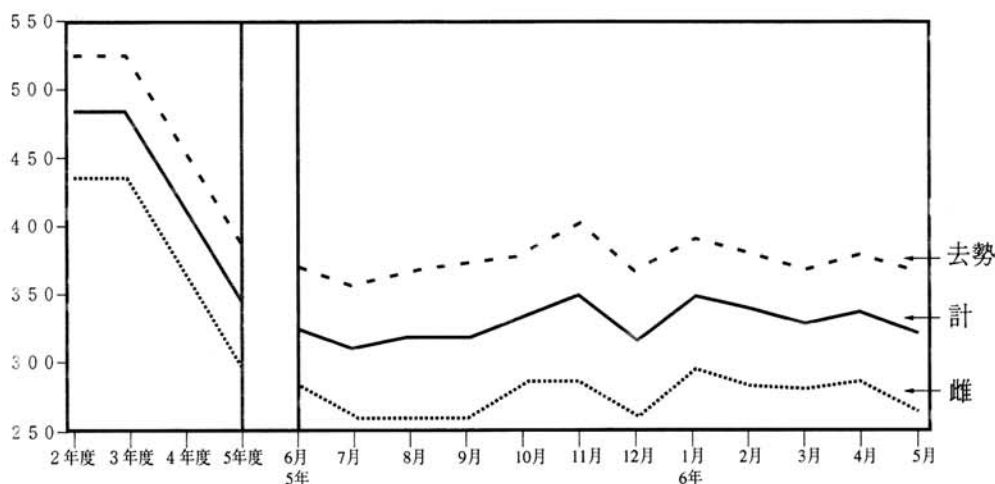
価格情勢	2	今月の飼養管理ポイント	12
事業紹介	3	おたずねします	13
トピックス	4	今後の行事計画	14
技術情報	6	一服放談	15
現地情報	8	編集後記	15

価格情勢

肉用子牛価格の推移 (宮崎県)

(単位：千円、税込み価格)

単位：千円



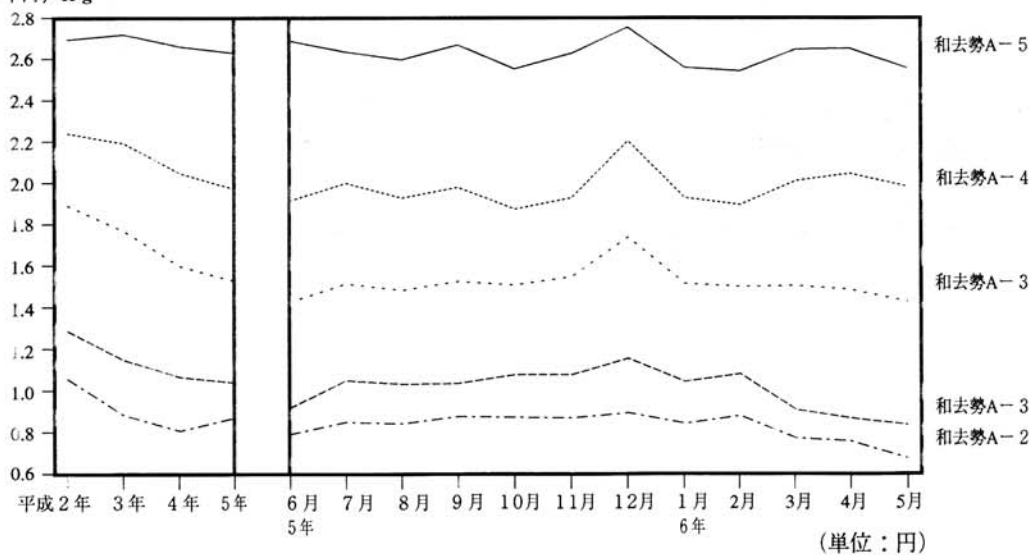
肉用子牛せり価格

	2年度	3年度	4年度	5年度	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
雌	446	436	362	277	282	260	260	257	282	284	259	292	283	279	282	267
去勢	526	527	458	377	372	355	366	370	377	398	365	388	387	372	381	373
計	487	485	413	330	328	309	317	316	333	346	314	345	338	329	334	324

※平成6年5月分は速報値

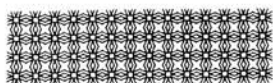
品種別規格別牛枝肉卸売価格 (東京)

単位：千円/Kg

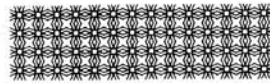


	2年度	3年度	4年度	5年度	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
和去勢A-5	2,682	2,711	2,643	2,612	2,687	2,625	2,589	2,650	2,539	2,630	2,751	2,554	2,544	2,624	2,618	2,556
和去勢A-4	2,226	2,178	2,024	1,937	1,896	1,970	1,913	1,962	1,856	1,926	2,190	1,923	1,895	1,947	1,976	1,885
和去勢A-3	1,862	1,745	1,547	1,498	1,404	1,496	1,462	1,513	1,489	1,526	1,736	1,498	1,499	1,461	1,465	1,417
和去勢B-3	1,247	1,116	1,029	1,015	886	1,014	1,006	1,006	1,051	1,060	1,126	1,013	1,054	1,000	868	841
和去勢B-2	1,020	842	772	827	753	823	818	855	849	847	880	829	858	759	736	666

※平成5年度分は単純平均値、平成6年度4・5月分は速報値



事業紹介



肉用子牛生産者補給金制度

平成6年度保証基準価格及び合理化目標価格

区 分	黒毛和種	褐毛和種	乳用種	その他の肉専用種
保証基準価格	304,000円	280,000円	162,000円	208,000円
合理化目標価格	267,000円	246,000円	126,000円	163,000円

平成5年度平均売買価格

区 分	黒毛和種	褐毛和種	乳用種	その他の肉専用種
第1四半期	311,400円	193,100円	98,400円	99,300円
第2四半期	313,000円	211,300円	97,800円	132,800円
第3四半期	319,700円	220,300円	98,400円	92,800円
第4四半期	319,900円	213,400円	91,500円	89,600円

年度別生産者補給金交付額（平成5年度は第3四半期分で交付見込額）（単位：頭、千円）

区 分	乳 用 種		褐 毛 和 種		その他の肉専用種		総 額
	頭 数	金 額	頭 数	金 額	頭 数	金 額	
平成3年度	11,908	288,471	—	—	29	2,302	290,773
平成4年度	18,105	904,361	—	—	30	2,615	906,976
平成5年度	21,931	1,399,090	32	2,169	—	—	1,401,259
合 計	51,944	2,591,922	—	2,169	59	4,917	2,599,008

※平成4年度（第4四半期分）及び平成5年度は概算

子牛生産拡大奨励事業

事業の実施状況（発動状況）

年 度		2 年 度				3 年 度				4 年 度				5 年 度			
四 半 期		第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4
拡大 奨励金	黒毛													○	○	○	○
	褐毛	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○
	その他	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
生産 奨励金	黒毛													○	○	○	○
	褐毛	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○
	その他	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

本県の交付実績

年 度	交付頭数（頭）	交付金額（千円）
2年度	0	0
3年度	0	0
4年度	0	0
5年度	60,124 （拡大25,820 生産34,304）	1,340,388 722,936 617,452

※5年度（第1～3四半期）は概算

肉用牛肥育経営安定緊急対策事業

事業の実施状況（発動状況）

年 度		2 年 度				3 年 度				4 年 度				5 年 度			
四 半 期		第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4
乳用種	緊急	×	○	×	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	×	×
	特別	—	—	—	—	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	×	×
肉専用種	緊急	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○
	特別	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

本県の交付実績（平成5年度は第2四半期まで）

年 度	交付頭数（頭）	交付金額（千円）
2年度	7,388	59,026
3年度	16,557	307,600
4年度	29,289	502,910
5年度	26,154	433,650

※4年度及び5年度（第1～3四半期分）は概算

トピックス

牛肉自給率42%に低下

平成5年度の牛肉輸入量（部分肉ベース）は前年度比33.9%増の567千トンと過去最高になりました。

生体	枝肉	部分肉	精肉
650 K g	390 K g	270 K g	245 K g
(100)	(60)	(42)	(38)

特に、チルドの伸びが著しく前年度より80千トン以上も増加し、初めて300千トン台になり、フローズンを上回りました。

輸入牛肉の国別内訳は米国産243千トン、豪州産302千トンとなっています。

これに対し、国内生産は、前年度比0.3%減の415千トンにとどまりました。この結果、国産牛肉のシェアは42%と前年度に比較して7.4ポイント低下しました。輸入牛肉の急増は、量販店の特売セールなどの商材に活用され、取り扱いが増えたことや外食産業が価格の安い輸入牛肉を使い、割安感のある商品を提供するため、仕入を増やしたことも一因のようです。

牛肉の輸入量

(部分肉ベース、単位：千トン)

年度	輸入量						冷蔵		冷凍		割合
	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	前年比	実数	割合	
63	285	127.6	119	140.3	148	119.2	80	132.3	197	29.0	
元	364	127.5	152	127.8	190	128.0	121	150.9	235	33.9	
2	384	105.6	164	108.4	198	104.5	150	124.6	230	39.5	
3	327	85.1	142	86.1	176	88.7	170	113.2	153	52.7	
4	423	129.5	183	129.2	228	129.3	217	127.5	204	51.6	
5	567	133.9	243	132.9	302	132.6	301	138.8	264	53.1	

資料：大蔵省「日本貿易月表」

牛肉の生産量

(部分肉ベース、単位：千トン)

年度	生産量								
	うち肉専用種			うち乳用種			シェア		
	実数	前年比	シェア	実数	前年比	シェア	実数	前年比	シェア
63	398	100.0	129	99.1	(32)	269	100.7	(67)	
元	377	94.7	133	103.5	(36)	243	90.6	(64)	
2	388	102.9	145	108.6	(37)	243	99.7	(62)	
3	407	104.7	153	105.4	(38)	253	104.4	(62)	
4	417	102.5	159	104.4	(38)	257	101.3	(62)	
5	415	99.7	169	105.9	(41)	246	95.9	(59)	

資料：農林水産省「食肉流通統計」

※：シェアは生産量を100とした指数

牛肉需給の推移

(部分肉ベース、単位：千トン)

年 度	50	55	60	63	元	2	3	4	5
生産量	235 (▲5.2)	302 (7.9)	389 (3.2)	398 (0.0)	377 (▲5.3)	388 (2.9)	407 (4.7)	417 (2.5)	415 (▲0.3)
輸入量	64 (128.6)	120 (▲9.1)	158 (6.0)	286 (28.3)	364 (27.3)	384 (5.6)	327 (▲14.9)	423 (29.5)	567 (33.9)
推定 出回り量	291 (1.0)	418 (3.7)	547 (3.0)	681 (9.0)	697 (2.3)	766 (9.9)	789 (3.0)	850 (7.7)	947 (11.4)
在庫増減	8	4	5	3	44	6	▲55	▲10	35

資料：「食料需給表」農林水産省

※：4年度は速報値、5年度は畜産局推計。

平成6年肉用牛飼養戸数は
減少、飼養頭数はほぼ前年並

平成6年2月1日現在の肉用牛の飼養状況が発表されました。全国の飼養戸数は小規模飼養者を中心に飼養中止があり、前年対比75%減の184千戸です。飼養頭数は小規模飼養者の飼養中止はあったものの、大規模飼養者を中心とした規模拡大もあり、前年並みの2,971千頭です。

県内の飼養戸数は前年対比3.9%減の19.6千戸で20千戸を割りました。飼養頭数は前年対比1.8%増で247千頭です。

肉用牛の飼養頭数のベスト5は北海道、鹿児島、宮崎、岩手、熊本、肉用種子取り用雌牛頭数のベスト5は、鹿児島、宮崎、岩手、北海道、宮城です。

肉用牛飼養戸数、頭数の推移

全国

(各2月1日現在)

区 分		昭和63	平成元	2	3	4	5	6
肉用牛	戸数(千戸)	260.1	246.1	232.2	221.1	210.1	199.0	184.1
	(対前年増減率)(▲4.5)	(▲5.4)	(▲5.6)	(▲4.8)	(▲5.0)	(▲5.3)	(▲7.5)	
	戸数(千頭)	2,650	2,651	2,702	2,805	2,898	2,956	2,971
	(対前年増減率)(0.2)	(0.0)	(1.9)	(3.8)	(3.3)	(2.0)	(0.5)	
	1戸当たり(頭)	10.2	10.8	11.6	12.7	13.8	14.9	16.1
うち	戸数(千戸)	202.6	194.4	—	183.3	176.3	168.3	155.7
子取用	頭数(千頭)	666	673	687	714	739	745	725
めす牛	1戸当たり(頭)	3.3	3.5	—	3.9	4.2	4.4	4.7
うち	戸数(千戸)	68.2	57.3	—	39.6	35.8	33.7	32.1
肉専用種	頭数(千頭)	696	697	701	722	736	760	793
肥育牛	1戸当たり(頭)	10.2	12.1	—	18.2	20.6	22.5	24.7
うち	戸数(千戸)	27.5	25.3	22.8	19.9	16.6	14.7	13.2
乳用種	頭数(千頭)	1,036	1,024	1,038	1,073	1,083	1,088	1,092
肥育牛	1戸当たり(頭)	37.7	40.5	45.5	53.9	65.2	74.0	82.7

資料：農林水産省「家畜統計」、「家畜の飼養動向」

※：飼養形態別戸数は、これらを重複して飼養している場合もあることから、必ずしも戸数の合計は肉用牛飼養戸数とは一致しない。

宮崎

(各2月1日現在)

区 分		昭和63	平成元	2	3	4	5	6
肉用牛	戸数(千戸)	28.0	26.5	24.4	22.9	21.8	20.4	19.6
	(対前年増減率)	(▲3.1)	(▲5.4)	(▲7.9)	(▲6.1)	(▲4.8)	(▲6.4)	(▲3.9)
	戸数(千頭)	211.6	217.8	219.0	224.7	233.8	242.4	246.7
	(対前年増減率)	(▲1.1)	(2.9)	(0.6)	(2.6)	(4.0)	(3.7)	(1.8)
	1戸当たり(頭)	7.6	8.2	9.0	9.8	10.7	11.9	12.6
うち	戸数(千戸)	26.1	24.1	—	21.3	20.5	19.4	18.6
子取用	頭数(千頭)	91.6	90.0	90.9	92.0	95.5	99.5	98.5
めす牛	1戸当たり(頭)	3.5	3.7	—	4.3	4.7	5.1	5.3
うち	戸数(千戸)	2.92	2.77	—	2.45	1.96	1.61	1.56
肉専用種	頭数(千頭)	44.0	52.8	54.5	54.6	55.3	56.4	59.6
肥育牛	1戸当たり(頭)	15.1	19.1	—	22.3	28.2	35.0	38.2
うち	戸数(千戸)	1.04	0.95	0.92	0.76	0.60	0.44	0.35
乳用種	頭数(千頭)	21.8	28.0	26.0	28.6	29.4	30.1	31.1
肥育牛	1戸当たり(頭)	21.0	29.5	28.3	37.6	49.0	68.4	88.9

U R 関連国内対策の検討

- ・ 昨年12月17日に「ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意の実施に伴う農業施策に関する基本方針」を閣議了解。
- ・ 内閣総理大臣を本部長とする「緊急農業農村対策本部」を設置。
- ・ 農林水産省も同日に「ガット・ウルグアイ・ラウンド関連国内対策本部」を設置。
- ・ 2月1日に73回農政審議会の開催により、検討を開始。その後、数回の農政審議会を開催し、U R 農業合意の評価とそれを

踏まえた農業、農政のあり方についての意見聴取、意見交換、新政策の今後の展開、自給率のあり方、農村対策、価格対策等についての意見交換。

- ・ 5月10日以降全国7所で地域農政審議会を開催し、より多くの関係者の意見を聴取。
- ・ 九州・沖縄ブロック農政審議会を5月26日に宮崎で開催。
- ・ 今後、数回にわたり農政審議会を開催し、夏の段階で「基本方針」の趣旨に沿い、関連対策を中心とする取りまとめを行なう予定。
- ・ 県段階においては、「農産物輸入自由化

等緊急対策会議」を設置し、県内農業に与える影響を分析し、総合的な対策を検討するとともに、価格関連対策の在り方等について検討。

平成5年度農業白書について

平成5年度の農業白書が公表されました。今回の白書は、平成5年の異常気象とその影響、効率的・安定的経営体育成のための条件整備を念頭に置いた農業経営の変貌と展開方向、UR交渉の経緯等を主な内容としています。主な内容は以下の通りです。

1 農業経営の新たな展開として、

(1) 我が国の農業経営には家族経営を基礎としながらも企業の経営に向かいつつある大規模経営と多数の小規模経営の二つの流れ。

(2) 発展する農業経営では、労働力・土地・資本の積極的な投入や効率的な配分、適切な作目の選択。大規模な農業経営体は経営の複合化・多角化、財務管理等のソフト面からの充実等に積極的な取り組み。

(3) 効率的・安定的な農業経営体を育成するため、①生産性の向上、生産コストの低減、高付加価値化、②小規模農家等を補充するため、経営機能の外部化、③優れた経営感覚やコスト意識、経営管理能力のかん養、④農業経営への助言・支援体制の強化等が重要。

2 今後の方向として、

①優れた経営感覚、経営管理能力をかん養しつつ、効率的・安定的な農業経営体が農業生産の大宗を占めるよう、農業構造の改善を加速化すること、

②UR農業合意に伴う新たな国境措置のもとで、国内供給が可能なものについては国内供給を基本としつつ、輸入や備蓄をも適切に組み合わせ、食料を安定的に供給することを通じ、現在の豊かな食生活の維持を目指すこと、

③食料供給システムにおける国内農業と食品産業との結び付きを強めるとともに、食品表示等に関する消費者政策の普及・浸透を図ること、

④環境との調和と国土の均衡ある発展を図るため、環境保全型農業の取り組みを進めるとともに、都市住民にも開かれた緑豊かな農村空間の維持・形成を図り、中山間地域の活性化に努めることを念頭に置く必要がある。

明日を築く肉用牛検討委員会発足

この委員会は、本県肉用牛の現状把握の上に立ち、将来における生産から販売、そして経営ビジョンを作る会として発足しました。

本会の委員は県、肉用牛関係機関、団体等の代表者17名で構成されています。第1回の委員会は5月に開催され、各種の課題が出されました。その内容を一部紹介します。

- 1 負債農家対策
- 2 規模拡大、一貫経営移行の場合の資金対策
- 3 銘柄牛肉確立のための統一マニュアルの作成
- 4 複合経営を加味した中核農家育成
- 5 高齢化対策、省力化技術の開発
- 6 指導体制の一本化と技術員のレベルアップ

等が出され、今後、さらに深く検討することになりました。1年間を目安に検討を重ねながら肉用牛の方向を定めていきたいと考えています。

● 技術情報 ●

受精卵作出の低コスト化への試み

本県の受精卵移植（ET）の実績をみると、県関係分（畜産試験場、優良家畜受精卵総合センター）だけで移植頭数は4,000頭を超え、産子数も、1,600頭を数えようとしています。（平成6年3月末現在）

また、最近では、ET技術を地域ぐるみで活用するとともに、和牛の改良速度を更に速めるため、農家で飼われている雌牛を供卵牛として採卵を行い採取した受精卵を地元に還元する新たな方式が展開しようとしています。

このようにET技術の実用化は着実に進みつつありますが、まだ幾つかの解決しておくべき課題が残っています。

その一つは過剰排卵処理技術の簡易化です。現在、過剰排卵処理にはFSHというホルモン剤を朝夕2回、3日間、計6回注射します。

この際の保定と注射による牛へのストレスは相当大きなものです。また往診料や牛を補捉する手間も無視できません。

FSHの注射が1回で済めばストレスが小さくなって1回当たりの採卵数が増える可能性があり、また手間が減ることで1回当たりの受精卵のコストは低くなります。

畜産試験場では国の家畜改良センターと全国7県の共同試験として2年前から、FSHの1回投与法に取り組んでいます。

その方法は、薬品の基剤などに使われているPVP（ポリビニールピロリジン）という膠状の物質にFSHを溶かして注射するというものです。

これまでの試験から従来の方法に見合う採卵成績が得られる見通しが立ちましたので、更に事例を重ね、地域で役立つ技術として確立したいと考えています。

最近の牛枝肉格付の動向

平成5年度の全国格付は、全国118か所の卸売市場並びに食肉センターにおいて実施され、と畜頭数に対する格付頭数（1054,891頭）の割合は70.4%となっています。格付頭数は

年々増加傾向にあります。肉質4等級以上の割合は全国的に年々低下し、本県においても7割程度で推移してきたものが平成5年度は60.3%となっています。

また、等級別価格では、和牛去勢A5は2,600円台、A4は2,000円内外、A3は1,500円内外で推移し、依然品質間の価格差が顕著です。

牛肉をめぐる環境は、今後ますます厳しい情勢が続くものと思われますので、これまで以上に改良の推進、肥育技術の高位平準化に関係者一丸となって精進し、内外産地間競争に打ち勝つ足腰の強い産地体制を構築することが肝要です。

牛枝肉格付の動向（和牛去勢）

（単位：頭、%）

年度	格付頭数		うち肉質4等級以上			
	宮崎	全国	頭数	割合	宮崎	全国
元	10,108	198,470	7,304	124,751	72.3	62.9
2	11,333	187,780	8,221	117,073	72.5	62.3
3	13,195	233,400	9,556	138,846	72.4	59.5
4	13,881	238,942	9,324	135,993	67.2	56.9
5	15,674	255,489	9,458	131,732	60.3	51.6

資料：宮崎県経済連調べ、日本食肉格付協会調べ
※宮崎県は県経済連取扱分

牛枝肉規格別卸売り価格の推移 （和牛去勢東京市場）

（単位：円/kg、%）

区 分		2 年度	3 年度	4 年度	5 年度
年度	A－3	2,682 (102.3)	2,711 (101.1)	2,643 (97.5)	2,612 (98.8)
	A－4	2,226 (102.0)	2,178 (97.8)	2,024 (92.9)	1,937 (95.7)
	A－5	1,862 (98.6)	1,745 (93.7)	1,547 (88.7)	1,498 (96.8)

資料：農林水産省「食肉流通統計」
※（ ）内は前年比

平成5年度和牛子牛の県内セリ成績

1 出荷頭数と県内保留率

平成5年度の和牛セリ市出荷頭数は、73,640頭で前年比3.2%の増加でした。地域別には、南

那珂、児湯地区が大きく増加したものの、宮崎、東諸県地域で減少しました。

県内への保留状況は、雌 19,500頭（保留率 56.6%）、去勢 19,500頭（保留率 49.9%）、合計 39,000頭（保留率 53.0%）で、昨年に比べて 1.2 ポイント低下しました。

購入県のベスト 5 は、雌が①長野（1,770頭）②栃木（1,500頭）③三重（1,420頭）④香川（1,360頭）⑤佐賀（1,090頭）、去勢が①佐賀（2,790頭）②長野（2,420頭）③熊本（1,680頭）④栃木（1,510頭）⑤愛知（1,220頭）となっています。

2 価格動向

県内平均価格は、雌 277 千円（前年対比 23.4% 低下）、去勢 377 千円（前年対比 17.7%）平均 300 千円（前年対比 20.0% 低下）でした。

地域別では、最も高い地域が 350 千円、最も安い地域が 320 千円でしたが、種雄牛の広域利用により、地域間格差は年々解消しつつあります。

3 種雄牛の構成

供用された種雄牛のベスト 5 は、糸秀（13,200頭）、糸弘 2（11,600頭）、隆桜（10,800頭）、誠隆（8,200頭）、菊安（3,800頭）で、全体の 65% を占めています。それぞれの平均価格は、雌と去勢ではやや異なっており、雌では①糸秀（329 千円）、②隆桜（286 千円）、③糸弘（272 千円）、④菊安（240 千円）、⑤誠隆（222 千円）の順位、去勢では①隆桜（424 千円）、②糸秀（404 千円）、③糸弘 2（390 千円）、④菊安（343 千円）、⑤誠隆（337 千円）の順位となっています。

4 出荷日齢

平成 5 年どの出荷日齢は 308 日（前年 307 日）、出荷体重は 298kg（前年 298kg）、日齢体重は 0.87（前年 0.88）で、わずかに増体が低下しています。

出荷日齢の大半は 271～330 日に集中しており、271～300 日が、29.3%、301～330 日が 47.8% で、これらを合わせると約 77% を占めます。

一般的に出荷日齢が若いほど価格は高くなっていますが、雌は 241～390 日まではおおむね 280 千円前後、去勢は 211 日～330 日まではおおむね 380 千円前後で推移し、これ以上の出荷日齢になると、雌で 40 千円、去勢で 30 千円以上低落しています。

さらに同じ価格でも出荷の早い方が生産コストが安くなることから、育成管理技術と繁殖雌牛能力の向上が所得の増加に直接結びつく結果となっています。

5 母牛の年齢

平成 5 年度の母牛の年齢は県内平均 6.6 歳ですが、地域によって格差があり、最も若い地域は宮崎で 5.5 歳最も高い地域は北諸県で、7.1 歳となっています。

子牛価格は、一般的に母牛の年齢が若い程高くなっていますが、1～5 歳がおおむね 350 千円で推移し、6 歳が 337 千円、さらに 1 歳増すことに約 10 千円安くなり、10 歳以上では 290 千円にまでさがります。10 歳以上の母牛は県全体で 20.6% を占めていますが、これらから生産された子牛は 5 歳以下の母牛の子牛に比べると約 60 千円も安くなっています。

雌子牛価格が非常に安いこの時期にこそ、積極的に優良な繁殖牛への更新を行うことが、農家経営基盤の確立にとって最も重要かつ緊急なことだといえます。

現地情報

地方農政審で新富町松本氏の経営視察

九州・沖縄ブロック農政審議会が 5 月 26 日宮崎市で開催され、審議会に先立ち、委員・農水省、農政局等が新富町の松本氏の経営を視察されました。

松本恵氏は、本県を代表する和牛繁殖專業経営の 1 人であり、昭和 38 年に繁殖牛 3 頭からスタートし、その後、工夫を重ねながら徐々に規模を拡大し、現在、繁殖牛 69 頭までに達し、多頭化に成功されています。

また、この間、農林水産祭の農林水産大臣賞等を受賞され、経営の優秀さとモデル性が高く評価されるとともに、児湯農業協同組合肉用牛部会新富町支部の会長、花嫁推進委員等地域のリーダーとして活躍されています。

当日は、委員から矢継ぎ早に次のような質

問が出されました。

- ・多等化、経営安定化のための創意工夫について
- ・労働力、休暇、労働配分、家計の区分について
- ・子牛販売額、所得率の向上（平成3年度60%）のポイントについて
- ・規模拡大の手法、資金借入状況について
- ・粗飼料の確保、土地の賃借状況について
- ・子牛価格低落の状況下での今後の規模拡大等の経営戦略について

松本氏は、早くから記帳を真面目に行い、施設機械への投資を抑え、省力化に努め、堅実な多頭化を進めるとともに、受精卵移植等先進技術も積極的に取り入れるなど、生産コストの低減に前向きに取り組み、その姿勢に一同感心されました。中でも、農業が抱える課題の一つ、後継者の確保と花嫁対策に話題が移ると、後継者夫婦と一致協力のもと、立派な経営と明るい家族の雰囲気を目のあたりにして、“実践こそ最大の後継者育成”“後ろ姿の教育”の立派な事例であると同うなずかれました。今後とも厳しい農業環境にもめげず、さらに立派な畜産経営をめざして頑張るよう激励の言葉を最後に、同じ和牛生産県である鹿児島県知事と固い握手を交わしながら、一行のバスは、審議会が開催される宮崎市に向け松本氏宅を後にしました。



農業後継者の花嫁対策について、松本恵氏息子の嫁さんも加わり、農政審の先生方からの色々な質問に対応しているところ（新富町）

国富町に畜産団地「なかよし牧場」建設される

国富町は、宮崎市に隣接していることなど

から都市化が進み、市街地での肉用牛生産は規模拡大はおろか、飼うことすら難しくなっている現状です。町では肉用牛振興対策として、混住化地区内の肉用牛経営農家に対して、環境保全の問題であるハエ・ふん尿処理・鳴き声・臭いなどの問題を解消するため、牛舎移転によるモデル的な集団の育成、相互扶助による余暇創出後継者の育成、低コスト簡易牛舎の実証展示による規模拡大を図ることを目的に、畜産団地の建設を行いました。団地の名称もユニークで「なかよし牧場」と名付けられ、名称のとおり事業参加者3名が仲良く畜産経営を行なっています。

平成4年度から町単独事業により造成工事、建築工事（牛舎3棟 891㎡・堆肥舎68㎡）、場内道路整備等が行われ、総事業費は3,992万円となりましたが、農家の負担は626万円（総事業費の15%程度）となっています。

現在、子牛の価格が低迷しているものの、増頭するには良い時期であり、入居者3名には、今までのように近所に迷惑をかける心配もなく安心して畜産経営ができるとたいへん喜ばれています。

町では今後もこのモデル事業の成果を見ながら、団地を設立していく計画です。



「なかよし牧場」の全景（国富町）

椎葉村の林畜複合経営

椎葉村の畜産農家は、子牛生産農家がほとんどです。牛肉の輸入自由化に伴う子牛価格の下落、後継者不足による高齢化などで畜産農家は少しずつ減少しています。

そこで、同村では昭和62年度から「里山利

用促進対策事業」を導入し、現在、26戸、約50haのクスギ林に137頭の肉用牛を放牧しています。

この事業の効果としては、まず、①牛にかける手間が大幅に削減できること（世話をする時間は一日30分、毎朝、洗面器一杯分の飼料を与えるだけ。夏場は林に下草が生えているので塩と水が切れていないか見回る程度。）②子牛生産のコストが通常の半分で済むこと（加えて、下草刈りなどクスギ造林の手間も省け、さらに、牛の排泄物でクスギの生育も良好。高齢者でも十分経営可。）③繁殖率が高いこと（子牛生産では1頭の雌牛が一年一産するのが理想ですが、同村の林間放牧では0.9年に一産、早いものでは出産後26日目で受精したものもいます。また、発情がはっきりしており、お産も軽い。）④環境保全（現在の畜産は、し尿による汚染、土地流失など多くの問題がありますが、林間放牧では土地を木の根が覆うため土壌流失が少なく、し尿はクスギの栄養分となるなど、林内で一つの循環系を作りリサイクルされ、地下水汚染の防止にもなる。）

以上のように、広い山林へ繁殖牛を放すことにより、飼料の削減と省力化を図りながら、椎茸の原木となるクスギを生産するという林畜複合経営の本事業は、畜産不況に活路を開く低コスト畜産経営として関係者の期待が高まっています。

高千穂町に畜連肥育センター完成 産地形成へ弾み

高千穂町田原に畜連肥育センターが完成し、5月6日には落成祝賀会も執り行なわれました。

センターは鉄骨造り。約2haの敷地に800頭規模の肥育舎4棟、隔離舎1棟、推肥舎、飼料庫、格納庫などに各種作業機を備えています。「肉用牛振興施設整備事業」を活用して平成4年度に着工し、約4億円をかけて完成しました。

畜連では、地元購買の子牛を肥育、販売します。肥育センターの設置により地元保留率の向上が期待でき、枝肉データは牛群の改良

などの効果が待たれます。飼養管理では、除角の取り組みや週間作業ローテーションを組むことで、従業員の隔週休2日制の実現を図っているところだ。

将来は、アンテナショップなどの販売を展開し、産地間競争に打ち勝てる高千穂地域の肉用牛銘柄を確立できるものと確信しております。

香港で「宮崎牛」フェアを展開

「より良き宮崎牛作り対策協議会」（県、畜産関係団体、消費者団体等で構成）は、これまで「宮崎牛」の銘柄確立のため、大相撲優勝力士への「宮崎牛」の提供、「宮崎牛」の指定店の拡大、「宮崎牛」の対米輸出などに取り組んできました。今後一層の銘柄の普及定着を促進するため、新たに、①香港での「宮崎牛」フェアの開催、②シーガイアへの常設販売店の設置、③宮崎交通バスガイドの宮崎牛試食会の開催、④県内タクシーに対する指定店マップの配布等に取り組むことを決めました。海外進出は、アメリカに次いで2か国目であり、7月に香港の市場調査に入る予定です。

指 定 点 数

区 分	レストラン	販売店	計
県 内	20	81	101
県 外	12	90	102
海 外	2	3	5
計	34	174	208

※県外は、東京、大阪、横浜、福岡等、
海外は、ニューヨーク

「宮崎牛」の輸出実績

(単位: kg)

年度	ヒレ	サーロイン	リブロース	その他	計
2	240.4	533.4	636.3		1,410.1
3	286.9	1169.9	747.7	99.5	2,304.0
4	183.2	922.2	444.7		1,550.1
5	144.2	1043.7	580.1		1,768.0
計	854.7	3669.2	2408.8	99.5	7,032.2

※その他はカタロースとバラである。

第73回宮崎銘柄牛枝肉共進会 ランドチャンピオン、山元和美氏

第73回宮崎銘柄牛枝肉共進会が6月2日くみあい食肉高崎工場で開催されました。

県内各地から100頭が出荷され、厳正な審査の結果、個人ではランドチャンピオンに都城の山元和美氏の出品牛（去勢）が選ばれ、同日開催のせり市場で224万円の高値落札でした。団体賞はJA都城が獲得しました。

今回の成績は、平均で肥育日数599日、と殺前体重680Kg、枝肉重量434Kg、枝肉単価2152円/Kg、と好成績でした。3入賞者成績を紹介します。

宮崎銘柄牛づくりは県内消費者 らー宮崎牛ーレストラン

全国各地で“銘柄づくり”の産地間競争が激化しています。本県の「宮崎牛」はその競争に打ち勝って、名実ともに日本一の地位を確立しなければなりません。そのため、生産者、関係者が一体となり、懸命に生産から販売、PRに努力しているところです。しかし、県内での「宮崎牛」（格付4等級以上）の消費は約10%と僅かです。そこで“銘柄づくりは地元消費から”の合言葉で、宮崎牛の本当の味を確認して下さい。県内における宮崎牛指定レストランを紹介します。

大阪での和牛の消費

牛肉輸入自由化がスタートして4年目を迎えました。自由化開始直後、量販店等は一斉に輸入牛肉に走り、安売りイメージで消費者に輸入牛肉の売上げ増をもくろんだようですが、それほど増えていないと関係者は口をそろえて言っています。

入賞者と成績

賞	入賞者	枝肉重量	枝肉単価	販売金額
ランドチャンピオン	山元 和美（都城）	450.0kg	5,500円	2,239,650円
優 秀 賞	酪農公社	465.2kg	4,340円	2,018,968円
	黒木 卓（日南）	469.5kg	4,110円	1,929,645円
	川越忠次（南宮崎）	454.0kg	4,110円	1,970,360円
優 良 賞	横田照夫（佐土原）	441.9kg	3,200円	1,414,080円
	増田一紀（都城）	469.5kg	3,400円	1,596,300円
	薬師義正（都城）	469.5kg	3,020円	1,417,890円

県内における宮崎牛レストラン

	レストラン名	場所	TEL
宮崎市	いけすの四ツ目	橘通り西2-5-13	0985-24-1223
	焼肉の幸加園	江平西1-1-1	26-0458
	大野屋	吉村町平塚1811-7	25-2809
	平家の郷大塚店	大塚宮田2940	54-5785
	ホテル神田橋	大淀河畔公園通	25-5511
	しもふり亭	上野町6-17	20-8491
	明月館本店	橘通り西3-2-8	24-2927
	明月館県庁裏店	橘通り西2-5-13	24-1560
	明月館レマン店	天満町3-4-25	53-6546
	サラン	生目台東4-7-2	50-1019
	焼肉寿楽	中央通1-18大蔵ビル	29-7243
	杉の子	橘通り西2-1-4	22-5798
	宮崎観光ホテル	杉山1-1-1	27-1212
	ロイヤルパトラーズ	老松通1-2-3	25-8277
	ランプ亭	中央通8-16	25-8337
都城市	レストランマキシム	中町13-17	0986-24-7512
小林市	焼肉 & ステーキなかにし	大字細野1870	0989-22-4649
延岡市	レストラン 恵留土努 アリラン（焼肉）	北小路9-5 安賀多町1-4-9	0982-21-6760 32-5128
高鍋町	焼肉の金城	東町1378-1	0983-22-1227

もともと大阪は、和牛肉の専門店も多く和牛肉の消費どころとして有名です。バブル経済華やかだった頃は、神戸牛・松坂牛がこの店でも定番商品として百グラム当たり4～5千円のものが沢山売れたと言うことです。しかし今は、高級和牛肉でも大衆牛肉でも肉質・価格面とも納得しないと買わないようです。このように、高ければ買うと言う消費者構造が崩壊した中で価格に対する消費者の目は益々厳しく、当然、高級ブランド肉も店頭販売単価が半額に落ちているようです。そ

して、量販店・専門店を問わず、全国の産地の銘柄牛肉があちこちで売られるようになりました。

名前で満足させるか、食べて納得させるか。景気低迷が続く中、大阪の消費者は和牛肉の旨さを知っている潜在的需要があるだけに、食べて納得できるものを求めているようです。

高額商材としての和牛肉は、もともと業務需要が主体のため、バブル崩壊が大きく影響し、厳しい試練をむかえています。この厳しさは各産地とも同じで、殊に神戸牛・松坂牛などの近郷産地への打撃は大きいようです。

このような状況の中で、宮崎牛は大阪南港市場で順調に出荷頭数を伸ばし、佐賀牛と並ぶトップの座についています。市場・流通関



アンジェロバテオ（東京）宮崎牛レストラン

係者からは、「くいだおれの大阪」に宮崎牛を売り込む絶好の機会であると、産地のがんばりが期待されています。

■ 今月の飼養管理ポイント ■

暑熱対策について

夏場になると増体重の減少や、受胎率の低下がよく見られます。これらの主な原因は飼料乾物摂取量（DMI）が減少するためと考えられます。このDMIには体重・ステージ・環境・飼料の種類等各種の要因に影響されますが、夏場になると暑い熱ストレスで体温が上昇し第一胃の運動が弱まり、飼料の消化不良によりDMIは減少するのです。そこで、採食量の減少を防ぐための対策をいくつか考えてみましょう。

1 防暑対策

- ① 窓や壁を開放して自然換気を良くする。
また、送風機を使用する際には送風方向に注意する。
- ② 屋根全体に散水を行なう。ただし、牛舎内の湿度を高めないように注意する。
- ③ 牛体散水を行なう。
- ④ 石灰乳を屋根へ散布する。

2 採食量を高める工夫

- ① 良質粗飼料を給与する。これは飼料成分分析を実施して給与すると有効です。
 - ② 一回当たりの給与量を減らし、給与回数を増やす。また、夜間給飼も効果的です。
 - ③ 新鮮で冷たい水を確保し与える。
 - ④ 汗で失われるミネラル補給のためのミネラルの給与量を10%増加させる。
- 以上の点が夏場の飼養管理のポイントです。

「夏は暑いから受胎率が悪くて当然だ。」と諦めてはいませんか。要は、牛の栄養状態や環境さえ十分配慮すれば夏場をしのげるはずですよ。

牛の体温上昇を防ぎ、栄養を十分に与えるこの事さえできれば、自然と牛の状態も良くなり、夏場における問題点も解消されるはずです。

○ ???おたずねします。??? ○

和牛の検定という言葉をよく聞きますが、それはどんな事をするのですか？また、検定にはどんな方法があるのですか？

和牛の検定というと、一般的には産肉能力検定がよく知られています。これを大きく、直接検定と間接検定（または後代検定）とに分けることができます。

直接検定は種雄牛候補になる生後6～7カ月の雄子牛を一定の条件のもとで約4ヶ月間検定を行なう方法です。

検定の対象となる雄子牛の条件は、

1. 両親とも県指定の基礎牛であること
2. 発育、体型が優れ、血統的に良いもの
3. 母親の産肉能力が優れたもの

等です。近年、母親の産肉能力は、アニマルモデルによる育種価推定値で判定されるようになり、その中のトップクラスの雄子牛が直接検定を受検するようになりつつあります。

直接検定終了後、その成績により、優れたものが選抜され、しばらく育成期間を経て、次の間接検定を受検するために、試験交配を行ないます。

間接検定というのは、種雄牛候補の能力を、その子供の肥育成績によって推定するものです。すなわち、生後7～8カ月令の去勢牛8～10頭を1年間肥育し、増体性や、枝肉についての成績によって能力を判定しようというものです。

また、この間接検定と並行して実施されるのが、フィールド検定（現場検定）といわれるものです。試験交配によって生まれた子牛で、間接検定供試牛以外の子牛を、一般の肥育を行ない、その枝肉成績によって、種雄牛候補の産肉能力判定の資料とします。

このような検定を終えて、優れた能力があると判定されたものが、検定済種雄牛として本格的な供用となります。

今後の行事計画

子牛セリ市場開催日程

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31				
九 月	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土				
	小林		串間		児湯		宮崎		都城								延岡																		
	1,800		900		1,200		1,100		1,800								800																		
十 月	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月				
													都城																小林						
													1,800																1,700						

黒毛和種成雌牛登録検査日程

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
曜	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	
九 月	宮崎		崎		田野						南		那珂		敬老の日				西		白		杵		秋分の日		児湯		新富			
	佐土原		清武		野						串間		南郷・大東・市木		日南				高千穂・岩戸		田原上野		日之影・五ヶ瀬		川南		都農		高鍋・木城			
日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
曜	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	
十 月							第46回宮崎県畜産共進会 〔種畜の部〕				体育の日		東諸		県										第46回宮崎県畜産共進会 〔枝肉の部〕							
											高岡・綾		国富		国富																	

第46回宮崎県畜産共進会肉豚の部開催

肉豚の部は、種畜部門に先き立ち、オーエスキー病防疫対策のため県内外4処理場で審査が行われます。

- 1、出品点数
50組(500頭)

- 2、出品資格
血統明確で肉豚10頭(去勢5頭、雌5頭)

3、日程及び場所

日程	場所
平成6年7月6～7日	末吉町 南九州畜産工業株式会社
平成6年7月7～8日	高崎町 KK宮崎組合食肉高崎工場
平成6年7月20～21日	都農町 KK宮崎組合食肉都農工場
平成6年7月21～22日	日向町 南日本ハム株式会社

一 服 放 談

編集後記

鳥の鳴き言

青葉若葉が山野を埋めつくすと鳥の繁殖期となり、雄が雌に呼びかける声もいろいろで且つ一段と激しくなる。

先づ小綬鶏は「ちよつと来ーい。ちよつと来ーい」と鳴くが色気の強いものは「ちよつと行こーや、ちよつと行こーや」とも鳴くそう、鶯は「ホーホツケキョウ」と鳴くのが通り相場だが、それも変り種がいて「ホーホ毛キョン」と鳴くのもいるという。

そのほか一筆啓上つかまつり候と鳴くのはホホジロだと教えられたが、最近の子供には「サッポロラーメン味噌ラーメン」と聞こえるそうで、これも時代感覚であろうか。

さて、私達に最も身近なものは黎明を告げる鶏の声である、静かな農村で夜明けに歌う鶏の声はのどかで、遠くからだんだんと近くに飼われている鶏まで歌いだす、それは単なる「コケコッコー」ではなく、先づオンドリが「いつちよいこかアー……」とモーションをかけると、どこかのメンドリが「朝からヤー……」と答えるのだと或る先輩から習ったことがあるが、実際には早朝コケコッコーと歌うのはオンドリであり、メンドリは歌わないのである。

(頓珍漢)

早いもので今年も半分が過ぎてしまいました。昨年のような長雨・冷夏に比較して本年は春先きから天候に恵まれ、イタリアンライグラス等の生育も順調で、生草利用やサイレージ・乾草調整等がうまく行つたようです。しかし、農家に尋ねてみると、昨年は不順な天候の為に貯蔵飼料の確保ができなくて、春先きの収穫もすぐに利用せざるを得ず、思ったように貯蔵の確保ができなかったとのこと。如何に天候と飼料作物収量との関係が密接に作用するかを思い知らされました。

本年夏作のトウモロコシ・ソルゴー、夏作の牧草等の順調な生育とその収穫確保を祈念して止みません。

